

(5) 東 海



東海地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は堅調に増加している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

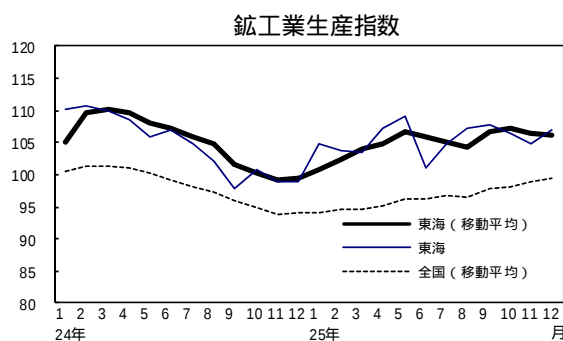
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 25 年 11 月)	今回 (平成 26 年 2 月)	
景況判断	緩やかに回復しつつある	回復している	↑
個人消費	緩やかに増加	堅調に増加	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

輸送機械は、北米向けが堅調に推移したものの、国内向けに増加の動きがみられたこと等から増加した。はん用・生産用・業務用機械は、主力の金属工作機械で、北米やアジア向けに動きがみられたことに加え、国内向けも緩やかに持ち直したこと等から増加した。電子部品・デバイス、スマートフォン向けの生産が堅調であり、高水準ではあるものの、前期の反動もあり減少した。化学は、主力の医薬品の低調等が寄与して減少した。プラスチック製品は、自動車向け製品等が好調だったこと等から増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7～9 月期	10～12 月期	10月	11月	12月
輸送機械	36.5	▲3.1	1.0	0.7	▲2.2	0.7
はん用・生産用・業務用機械	9.9	▲0.4	5.4	1.5	1.6	0.6
電子部品・デバイス	9.5	3.9	▲5.7	▲11.0	2.6	6.2
化学	6.9	▲3.3	▲1.0	6.2	▲3.9	▲1.5
プラスチック製品	5.9	▲0.3	3.0	1.2	▲1.3	0.4
鉱工業	100.0	0.9	▲0.6	▲1.5	▲1.3	2.1

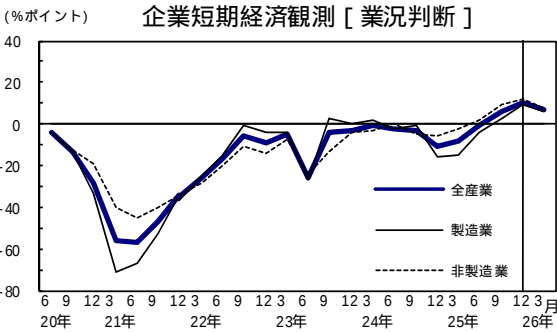
(備考) 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。

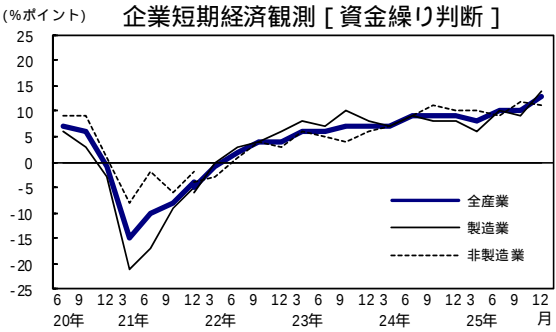
2. 全国及び東海の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ拡大している。

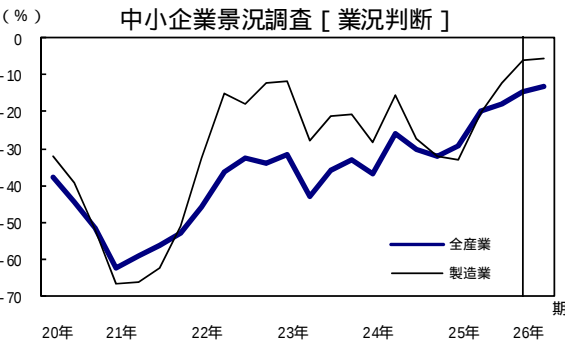
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。26年3月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。



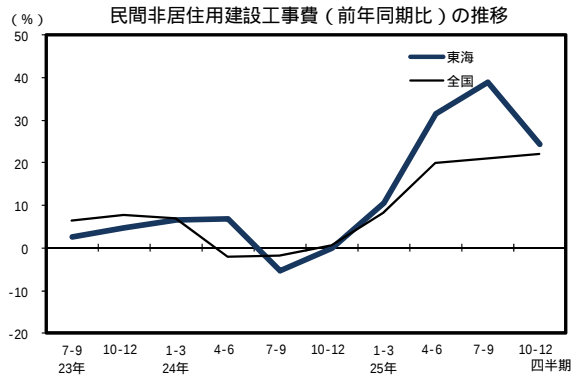
(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。26年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]
「売上は悪くないが、原料価格高騰により利益確保が厳しくなっている(化学工業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査)]

	(前年度比、%)	
	24年度実績	25年度計画
全産業	11.8	▲3.1(7.2)
製造業	12.7	12.4(12.6)
非製造業	11.0	▲16.6(2.5)

(備考) 1.()は前回(9月)調査比修正率。
2.22年度以降は、計画はリース会計対応ベース。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は堅調に増加している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比0.2%減、11月は同0.6%増、12月は同0.8%増となった。

大型小売店販売額

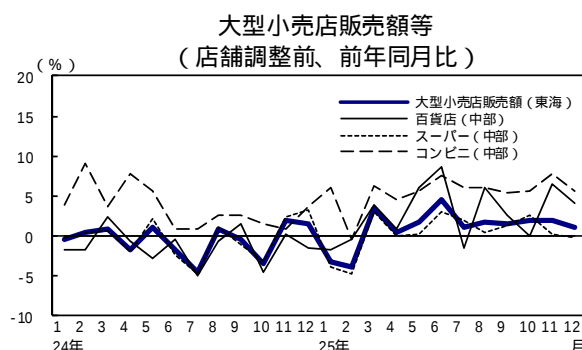
百貨店は、10月は、高額商品が引き続き好調であったものの、気温が高く推移したことで秋物衣料品の動きが鈍かったこと等から前年に対し横ばいであった。11月、12月は、高額商品が引き続き好調であったこと等から前年を上回った。

スーパーは、生鮮食品の相場高や販売促進の効果、出店効果があったこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (1月) [家計動向関連 (現状)]

東海地域の家計動向関連DIは、54.3となり前月より2.3ポイント低下した。

「1月に入って飲食店への来客数が非常に悪い。1日の来客がゼロの店が何軒も出てくるようになってきている (一般小売店 [酒類])」など、「悪くなっている」とする回答が増加した。

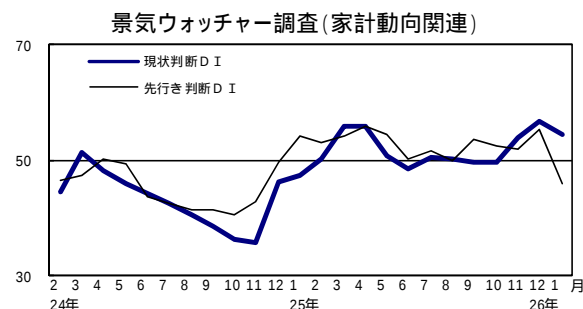
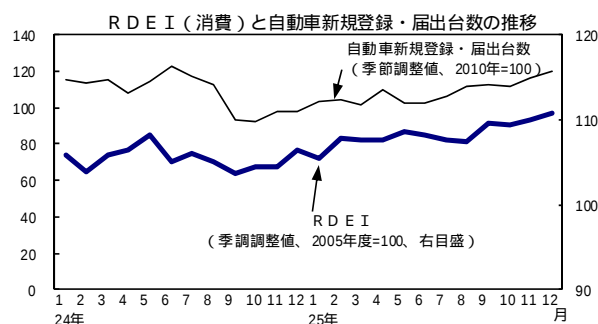


	25年10-12月	25年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	1.7	▲0.2	0.6	0.8
大型小売店 (*2)	1.6	1.9	1.9	1.1
百貨店 (*2)	3.6	▲0.0	6.4	4.1
スーパー (*2)	0.8	2.6	0.3	▲0.1
コンビニ (*2)	6.4	5.7	7.9	5.6
乗用車 (*3)	19.0	19.6	14.6	23.4
(季節調整値) (*3)	5.3	▲0.8	3.8	2.8

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%) 10-12月、12月は速報値。百貨店、スーパー、コンビニは、中部

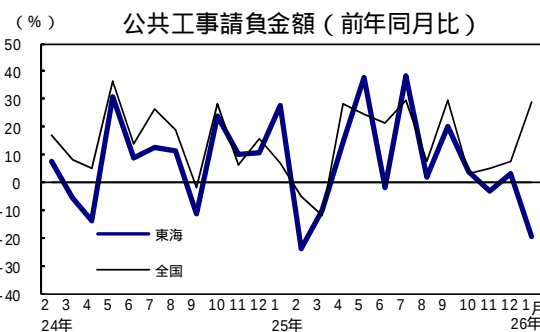
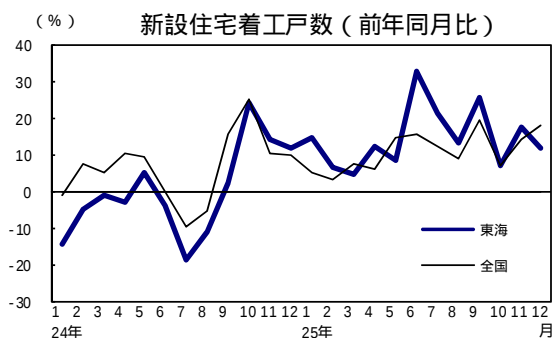
3. 乗用車は、新規登録・届出回数 上段は前年同期(月)比 (%)



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

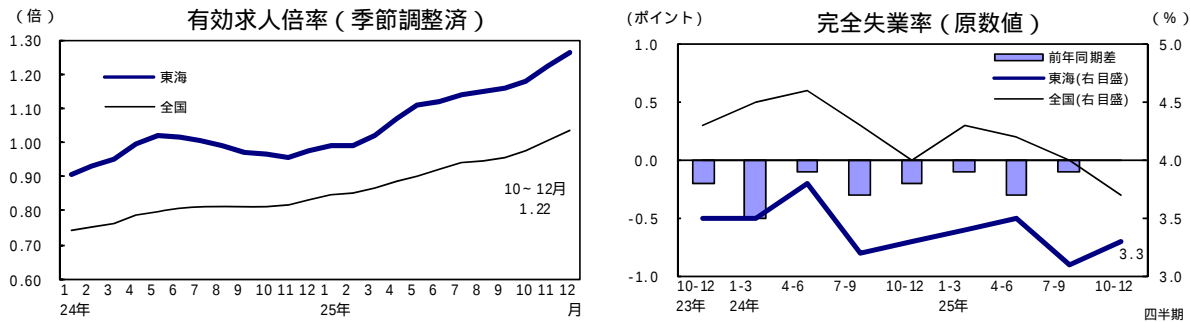
持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は25年度累計でみると前年度を上回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。

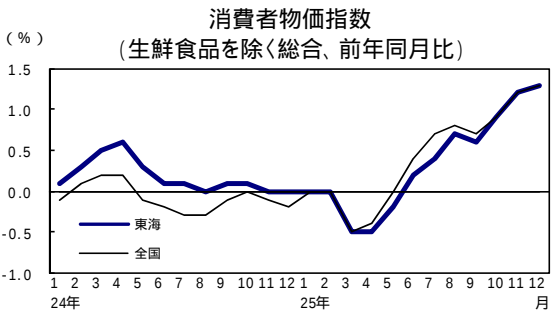


景気ウォッチャー調査（1月）[雇用関連（現状）]
「消費税増税前の駆け込み需要による自動車販売数の増加に伴い生産数も増加しており、求人も増えている（アウトソーシング企業）」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。
- (3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	25年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	26年1月
倒産件数	336	369	326	344	111
(前年比)	▲6.9	▲3.7	▲12.1	11.0	▲5.1
負債総額	780	665	616	633	141
(前年比)	14.8	▲17.4	11.8	17.0	▲34.7



- 景気ウォッチャー調査（1月）[合計（特徴的な判断理由）]
- <現状>
- ・消費税増税前の駆け込み需要が本格化している。客の一番の関心は増税前に納車が間に合うかである（乗用車販売店）。
- <先行き>
- ・消費税増税前の駆け込み需要がほとんどみられないので、その後の落ち込みもないと予想する。また、建設業界の人手不足により、施工価格も現状を底にして徐々に上がっていくと期待する（電気機械器具製造業）。

